

萬年橋

橋梁形式：一径間下路単純タイドアーチ橋
 架設年次：昭和5年11月
 所在地：江東区常盤一丁目から
 清澄一丁目間小名木川に架かる
 橋長：56.3m
 幅員：17.7m
 指定：江東区都市景観重要建造物



現在の様子



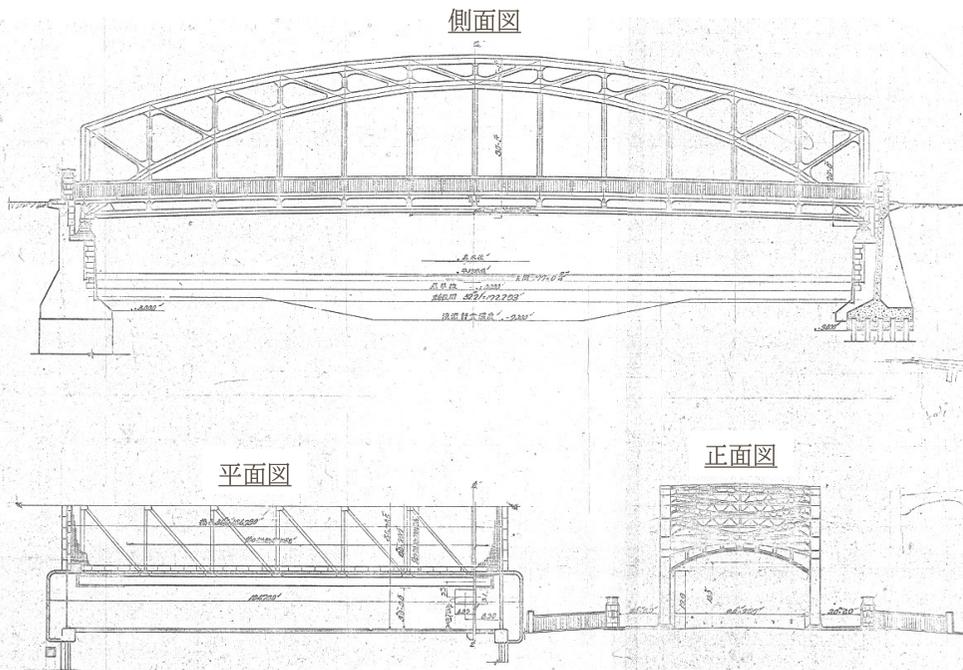
現在の様子



昭和53年撮影

萬年橋は、大正12年に発生した関東大震災の復興事業の一環として架けられた「震災復興橋梁」の一つです。

タイドアーチ橋とは、アーチの両端の支点を互いにタイでつないだアーチ橋のことで、一般のアーチ橋と違い、支点部に鉛直反力しか生じない特徴を有します。



景観整備工事でライトアップについて

昭和61年と昭和64年に「江戸の歴史と文化」をテーマに景観整備工事を実施しました。

橋台敷は、和風を基調とし、江戸の昔に通じる自然な肌合いを感じるオープンな広場を形成しました。

歩道には、芭蕉の句をヒントに得た陶板が設置されています。

また、平成20年にはライトアップ整備工事を行っており、夜間の景観も楽しめます。



説明板設置工事について

令和5年に関東大震災から100年を迎えるにあたり、過去の記憶や震災復興橋梁の歴史を広く区民に継承し、防災意識の啓発を図るために震災復興橋梁の説明看板を設置しました。

また、萬年橋は江東区都市景観重要建造物に指定されていることもあり、景観に配慮し、コンクリートを木目調に仕上げ、和の雰囲気や踏襲した意匠としました。

